

土地増価税と受益税

都市の財源として

都市の増進に必要とする財源は、従来は地租と受益税に依りて充てられてきた。然るに地租は、土地の所有に依りて課税するもので、土地の増進に直接の利益を享受する者には、必ずしも公平とはいへない。一方、受益税は、都市の増進に直接の利益を享受する者に課税するもので、公平である。従って、土地の増進に必要とする財源は、土地の増進に直接の利益を享受する者に課税する土地増価税と、都市の増進に直接の利益を享受する者に課税する受益税に依りて充てられるべきである。

スポーツ好きの 瑞典皇太子殿下

秩父宮殿下の御相手 今秋朝鮮へ御来遊

瑞典皇太子殿下は、スポーツに非常に熱心な方である。特に、スキー、乗馬、水泳などに長じている。殿下は、今秋、朝鮮に御来遊される予定である。殿下の御来遊は、朝鮮のスポーツ界に大きな刺激を与えることと見られる。



政務次官 異動任命発表

内閣は、政務次官の異動任命を発表した。新に任命されたのは、田中善立氏である。田中氏は、従来、農林省で勤務し、農林政策に精通している。この任命は、農林省の業務の円滑な遂行に資するものと見られる。

十四年度補産額 総額八億二千萬圓

十四年度の補産額は、総額八億二千萬圓に達した。これは、前年度に比べて、約一億圓増加している。この増加は、主に、米、麦、大豆などの主要な農産物の増産によるものである。

動搖防止 三木参謀官

三木参謀官は、動搖防止のために、重要な任務を担っている。参謀官は、政府の政策を立案し、実行を支援する重要な役職である。三木氏は、この任務を忠実に果たすことと見られる。

本年度製作豫想 六分五厘方の威政

本年度の製作は、六分五厘方の威政をテーマとしている。これは、政府の政策を批判的に検討し、その効果を評価することを目的としている。この製作は、社会の注目を集めることと見られる。

大築港となる 群山の喜び

三隻が横付けになる

群山の港は、大規模な築港工事が完了し、大築港となった。これにより、三隻の船が同時に横付けできるようになった。これは、地域の経済発展に大きく貢献することと見られる。

紛糾はあるまい 新機械も注文した

新機械の注文は、紛糾があるまいと見られる。これは、機械の性能や価格が、双方の利益に適合しているためである。この取引は、双方にとって有益なものと見られる。

京城學議戦 いよく白熱化する

小泉氏の出馬で定員超過 また二三名出馬か

京城學議戦は、いよいよ白熱化している。小泉氏の出馬により、定員が超過した。また、二三名の出馬も予想されている。この選挙戦は、非常に競争が激しいものと見られる。

建築界の第一人者 岩井長三郎氏

出馬は 龍山方面の候補

岩井長三郎氏は、建築界の第一人者である。氏は、建築技術に精通し、多くの有名な建築物を手掛けている。氏の出馬は、建築界の発展に大きく貢献することと見られる。

半旗を掲ぐ 府民一般の心得

半旗を掲ぐことは、府民一般の心得である。これは、国家の尊厳を尊重し、平和を愛する態度を示すことと見られる。府民は、この心得をしっかりと守るべきである。

服装上の注意 聖堂は黒紗を左腕に

服装上は、聖堂には黒紗を左腕に巻くことが注意されている。これは、聖堂の厳格な礼儀作法の一環である。参拝者は、この注意を守り、聖堂に参拝するべきである。

奉天票 四百七十元

に暴落す

奉天票は、四百七十元に暴落した。これは、市場の不安定な状況によるものである。投資家は、この暴落に注意を払うべきである。

平時威力の定義 軍務委員会決定

平時威力の定義は、軍務委員会によって決定された。これは、平時における軍隊の威力を定義し、その評価基準を定めることと見られる。この決定は、軍事政策の明確化に貢献することと見られる。

温厚で評判のよい 戸谷正路氏

戸谷正路氏は、温厚で評判のよい方である。氏は、社会で多くの信頼を得ており、その人徳が広く知られている。氏の活躍は、社会の発展に大きく貢献することと見られる。

滞納者七千人 組合員に留置されても

滞納者は七千人に達した。組合員は、留置されても滞納を続ける者がある。これは、社会の信用を損なうことと見られる。関係者は、滞納の解消を急ぐべきである。

法権調査員 奉天を視察

法権調査員は、奉天を視察した。これは、奉天の法権状況を調査し、その改善を目的としている。調査の結果は、今後の政策立案に活用されることと見られる。

妖妬の女房殺し

妖妬の女房殺しは、社会の注目を集めている。これは、女房の嫉妬による殺人事件であり、非常に悲惨な事件である。関係者は、事件の真相を究明するべきである。

防備防疫デー

消毒薬 藤後

家庭用 藤後

衛生用 藤後

金剛

金剛の威力

金剛の威力

京日案内

京日案内

京日案内

科外院病植

科外院病植

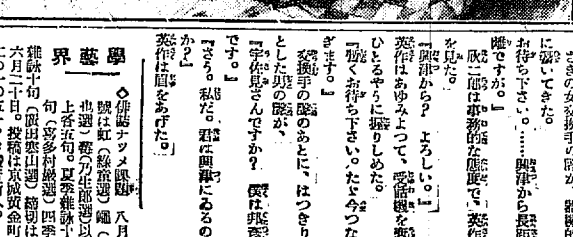
科外院病植

大流行

大流行

大流行

443-

[illegible]

竹藪を突合はせる約束で、前賢三枝、ちゃんと呼びつてあるんぞや。ねえ、成二郎さん！」
「デリく」と直江電話が鳴りだした。そこに係添してゐた成二郎すぐに受話機を取り上げた。「「成二郎でいらしやいませ。かりに閣下議の御用から長距離でございます。」」

「おや、女が抱手し、男が」
に驚いて。
「お待てなさい。……駿河から最上
陣です。」
成徳郎は事務的な態度で、英徳殿
を見る。
「御主人様、ようい。」
英作はゆづりよつて、愛嬌顔を奪ひ
ひととちらに嫁りめめた。
「腕を待ち下さい。たゞ今つづか
ぎませ。」
「抱手しの腰のあたりに、はつきり
とした卵の跡が」
「お母さんですか？　僕は男の子だ
から？」
「……私だ。君は蘭澤にあつたの
かと？」
英作は固をあげた。

◆ 健助サツメ眼帯 八月
也選（一巻）の生部選（二巻）
上巻付。夏雲集（三巻）四巻
句（多木村松子）

六月二十日、櫻葉山遊園會金時
界 藝 學

[illegible][illegible]

群山　一帯月三箇園毛
罷業職工


外右の三氏
座昭　盛琳
三光
向田六洲
くしに新を承ね得志の玄米飯
てし。『時流』の類となつた。此日夕乃
りず出づる繁星、由良之助、冥
明子、秋枝は、お主并、笑
七、三鶴、霞蔵、聖天、柳
燈籠に斑々光を照れる。王様子と
新聞下、雲霧あめめ、由良之助
福住登壇、血り抜け、飛脚子

日本時代史（第二卷）

本時代史は全十二冊、何
の老大家が執筆した新研
である。本巻は久米邦武
著「古代史」の上であつ
り垂仁天皇の任那開府ま
するに人事の通則、年序
の諸點に照して誤謬をた
の裏面にかくれた眞史實
最も貴重なる研究資料

である。豫約價一冊三圓
日本本號(六月)高蔭九郎
本號四十五錢東京京都
一丁目其社▲朝鮮及朝
二丁目其社▲朝鮮及朝
江原道文化紹介館▲
島省吾編輯、創刊號、
東京市外池袋其社▲教科
▲教育の世紀(六月)

○滿洲公論（六月）素戔
伊賀明其託（女醫界（六）
東京市達區市谷河田田五
千路學專門學校自治會
東京市達區市谷河田田三
龍山漢江遊
友友（六月）海友（六月）
東京市達區市谷河田田三
龍山漢江遊
友友（六月）海友（六月）


 んら者讀
 石井直三郎その他や歌
 舞會館事、翠葉苑等（三十
 二郷區道分町其社）
 ▲西大門
 長崎に爲
 野郎）の
 を感謝し
 （竹添町

りやうな女です（看護婦）▲府内に宿を借りてゐるが五三の桐は

校長と聞きおよんでやり
血あんな猶板は出しても
ませんか(七五ノ桐)▲
十七のクロン生に云々
中屋の小僧並に他の大僧
に正直な自分の心に聞い
自分の心をいつはる可
の破端なのか?(時勢
木下二丁目のS.T.君余り
に誤り

るよ（往昔生） ▲白くな
轉訛的に白くなり給へ
は一寸見た時の感で
に足るかも知れないが
この色は轉訛的には比
はないと思ふ（ヘンキ小僧

路夫聞けない事云ひ
隠れた頭を露手包み

三光 氣性 友田

座間 骨拔 伊藤王

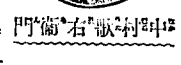
三光

座間 骨拔 伊藤王

三光

席題蚊 正木柳
三光
蚊はたがひて 露路を抜け
えない耳の方から蚊が迫り
見よ 追逃す蚊を睨み

争議國のために
であつた 廣く市井に



唐絲草紙

男爵を養ひました。男爵の階級に小松が六十年の間、陰陽師に下はせて置く。八幡に秘しうた十二人の女に今養へるものとなりまして、萬歳も一人に選ばれました。正に、船ヶ岡に願朝が出世を養上するが、暫れす二人の間に下つて萬歳も二人、妻が美しい上になので人は感に打たれ眼眺は萬歳を容れて現ひましたので、萬歳は唐

發賣品目 鐵御申越次第
東京橋町 丸見屋
營業所 下谷區

命が奪はれて、田子は借腹
里を下されたと言ふのが
の動でございます。雨の
く降り續きます時に斯様
興が多からうかと存じま
季には入浴して、ミツヲ
い紙かに泡で、きれいに

ひ落しますと、心持も晴
宜しいものでございます。つ
石鹼は作中が變なすか
らさすに、（中略）落し生々
わりのしつゝりした感に
なぞ、申します。聲がひ
して、肌はいりも不便で
いと云ふことで、甲冑氣
ざいますから、氣を晴れ


ございませう。お望をきいてございませう。このなまな氣をさつぱり洗ひたいは皆様の仰しやることでございませう。ミツク棉油池で皮膚まへへ取寄せまして、お要に川に棉油で、不乾性が十分でございませう。

良などは省めて意味の
 大 燐 金五
 廣明大燐 金燐
 悪口から
 又易

純正の石鹼は、亞爾簡保兒に透明に溶解し、遊離脂肪なきが故に濁濁することなく、混合物なきが故に些の沈渣をも殘留せず、更に「フェノールフタレイン」を以て、仔細に遊離の亞爾加里を驗するも、毫末の反應を呈することなき、之を化學上の純石鹼なりとす。

大	ミツリ石鹼の種類
塊一小	小形 大形 桶小形 箱小形
水、聚石鹼	芳芳堂を主とする 幾種模倣品有せる
三十番フロローラ	

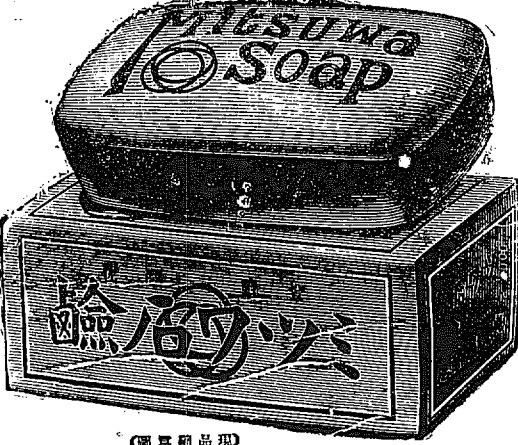

油脂の分泌量多くして、而も粗糙なる本邦人の皮膚、及漆墨を貰ふ毛髮の洗滌に用ふべき石鹼は、實に化學上の純石鹼たるの故のみを以て、其の適否を論すべからず



○ミツワ石鹼

は化學上の純石鹼たるのみならず
尙左の性質を具備す。

一、溫雅の芳香を有す
極めて細かき泡沫を生じ、作
用緩和にして、洗滌に際して



石鹼分を残留せず。

二、適度の溶解性を備へて、能く水にも溶解し、而も半途に溶け崩るゝ憂なし。

即ち、一般の家庭用として、實に本邦人の皮膚、毛髮の洗滌に應じ又衛生に適し、併せて經濟に合する理想的實用品なり。

○ミツ石鹼 大形は三個、小形は二個あり孰れも同値段にて提供仕候

ミツワ家庭薬
ミツワ煉齒磨
ミツワ榨油
肝油ドロップス
ミツワ規那鐵葡萄酒
ミツワ人參葡萄酒

當朝鮮各地方に對して
は格別出精御用命に應
じ可申候間何卒弊商會

發賣元

○

登錄
商標

東京市日本區板橋町四丁目四番
東京市日本區板橋町小間町四丁目
丸見屋商店
東京市下谷區二長町營業所
電話時金口陸東七〇番 電話後草持長
三三六九
三三七九
三三七九

釜山榮町二丁目三番地

福榮商會卸部

へ御註文の程奉希上候

日午後九時半至西
京のごとが他日論

五百名の鯨

森七郎の三民は七日八時の予定で
ある

所不定燃焼ガスし
の脱走と

昭和十

東京市長一〇、八七
電話七〇、八七
番 板橋区神宮前二五番

朝鮮郵船定期出帆
 京城府光化門前二〇
 新郵船株式會社
 二山出帆代理店內通販支店
 大丸 六月二日 東京行
 安丸 六月三日 大阪行
 州丸 六月七日 長崎三角
 南丸 六月二日 德島行

[illegible][illegible][illegible][illegible]

大坂商船會社

釜山支店	佐藤町電報	六四三番
元山支店	朝鮮電報	一三四番
仁川出帆所	朝鮮電報	二五番
京城代理店	內國通運會	一七九番

汽船出帆廣告

△大智	△大信	△最上	△神四	△東京					
△山、木浦、釜山	△平和	△小野丸	△四行	△川丸	△大智	△大信	△最上	△神四	△東京
△馬、三若連行	△大智	△大信	△最上	△神四	△東京	△大智	△大信	△最上	△神四
六月九日	九月六日	六月十二日	六月十四日	六月十五日	六月十四日	六月十五日	六月十六日	六月十七日	六月十八日
	三月前十一時	長崎、鹿兒							

元山出帆
城津、濱津雄基行
盛中 九月六日 三日後至
釜山 開門 宇品 神戶、大阪行
燕中 九月六日 七日午後二時
酒井行通船便科
京阪間 午前四時發車 元山御來
船 午後二時發車 元山御來
飯内主理科 二回精細得渡候

[illegible]

船名(上) 飛翔 出帆廣告
 航路 飛翔船 飛翔船
 六月廿一日 九月十三日
 六月廿二日 九月十四日
 六月廿三日 九月十五日
 六月廿四日 九月十六日
 六月廿五日 九月十七日
 六月廿六日 九月十八日
 六月廿七日 九月十九日
 六月廿八日 九月二十日
 六月廿九日 九月二十一日
 六月三十日 九月二十二日
 六月三十一日 九月二十三日
 六月三十二日 九月二十四日
 六月三十三日 九月二十五日
 六月三十四日 九月二十六日
 六月三十五日 九月二十七日
 六月三十六日 九月二十八日
 六月三十七日 九月二十九日
 六月三十八日 九月三十日
 六月三十九日 九月三十一日
 六月四十日 十月一日
 六月四十一日 十月二日
 六月四十二日 十月三日
 六月四十三日 十月四日
 六月四十四日 十月五日
 六月四十五日 十月六日
 六月四十六日 十月七日
 六月四十七日 十月八日
 六月四十八日 十月九日
 六月四十九日 十月十日
 六月五十日 十月十一日
 六月五十一日 十月十二日
 六月五十二日 十月十三日
 六月五十三日 十月十四日
 六月五十四日 十月十五日
 六月五十五日 十月十六日
 六月五十六日 十月十七日
 六月五十七日 十月十八日
 六月五十八日 十月十九日
 六月五十九日 十月二十日
 六月六十日 十月二十一日
 六月六十一日 十月二十二日
 六月六十二日 十月二十三日
 六月六十三日 十月二十四日
 六月六十四日 十月二十五日
 六月六十五日 十月二十六日
 六月六十六日 十月二十七日
 六月六十七日 十月二十八日
 六月六十八日 十月二十九日
 六月六十九日 十月三十日
 六月七十日 十一月一日
 六月七十一日 十一月二日
 六月七十二日 十一月三日
 六月七十三日 十一月四日
 六月七十四日 十一月五日
 六月七十五日 十一月六日
 六月七十六日 十一月七日
 六月七十七日 十一月八日
 六月七十八日 十一月九日
 六月七十九日 十一月十日
 六月八十日 十一月十一日
 六月八十一日 十一月十二日
 六月八十二日 十一月十三日
 六月八十三日 十一月十四日
 六月八十四日 十一月十五日
 六月八十五日 十一月十六日
 六月八十六日 十一月十七日
 六月八十七日 十一月十八日
 六月八十八日 十一月十九日
 六月八十九日 十一月二十日
 六月九十日 十一月二十一日
 六月九十一日 十一月二十二日
 六月九十二日 十一月二十三日
 六月九十三日 十一月二十四日
 六月九十四日 十一月二十五日
 六月九十五日 十一月二十六日
 六月九十六日 十一月二十七日
 六月九十七日 十一月二十八日
 六月九十八日 十一月二十九日
 六月九十九日 十一月三十日
 七月一日 十二月一日
 七月二日 十二月二日
 七月三日 十二月三日
 七月四日 十二月四日
 七月五日 十二月五日
 七月六日 十二月六日
 七月七日 十二月七日
 七月八日 十二月八日
 七月九日 十二月九日
 七月十日 十二月十日
 七月十一日 十二月十一日
 七月十二日 十二月十二日
 七月十三日 十二月十三日
 七月十四日 十二月十四日
 七月十五日 十二月十五日
 七月十六日 十二月十六日
 七月十七日 十二月十七日
 七月十八日 十二月十八日
 七月十九日 十二月十九日
 七月二十日 十二月二十日
 七月二十一日 十二月二十一日
 七月二十二日 十二月二十二日
 七月二十三日 十二月二十三日
 七月二十四日 十二月二十四日
 七月二十五日 十二月二十五日
 七月二十六日 十二月二十六日
 七月二十七日 十二月二十七日
 七月二十八日 十二月二十八日
 七月二十九日 十二月二十九日
 七月三十日 十二月三十日
 七月三十一日 十二月三十一日
 八月一日 一月一日
 八月二日 一月二日
 八月三日 一月三日
 八月四日 一月四日
 八月五日 一月五日
 八月六日 一月六日
 八月七日 一月七日
 八月八日 一月八日
 八月九日 一月九日
 八月十日 一月十日
 八月十一日 一月十一日
 八月十二日 一月十二日
 八月十三日 一月十三日
 八月十四日 一月十四日
 八月十五日 一月十五日
 八月十六日 一月十六日
 八月十七日 一月十七日
 八月十八日 一月十八日
 八月十九日 一月十九日
 八月二十日 一月二十日
 八月二十一日 一月二十一日
 八月二十二日 一月二十二日
 八月二十三日 一月二十三日
 八月二十四日 一月二十四日
 八月二十五日 一月二十五日
 八月二十六日 一月二十六日
 八月二十七日 一月二十七日
 八月二十八日 一月二十八日
 八月二十九日 一月二十九日
 八月三十日 一月三十日
 八月三十一日 一月三十一日
 九月一日 二月一日
 九月二日 二月二日
 九月三日 二月三日
 九月四日 二月四日
 九月五日 二月五日
 九月六日 二月六日
 九月七日 二月七日
 九月八日 二月八日
 九月九日 二月九日
 九月十日 二月十日
 九月十一日 二月十一日
 九月十二日 二月十二日
 九月十三日 二月十三日
 九月十四日 二月十四日
 九月十五日 二月十五日
 九月十六日 二月十六日
 九月十七日 二月十七日
 九月十八日 二月十八日
 九月十九日 二月十九日
 九月二十日 二月二十日
 九月二十一日 二月二十一日
 九月二十二日 二月二十二日
 九月二十三日 二月二十三日
 九月二十四日 二月二十四日
 九月二十五日 二月二十五日
 九月二十六日 二月二十六日
 九月二十七日 二月二十七日
 九月二十八日 二月二十八日
 九月二十九日 二月二十九日
 九月三十日 二月三十日
 九月三十一日 二月三十一日
 十月一日 三月一日
 十月二日 三月二日
 十月三日 三月三日
 十月四日 三月四日
 十月五日 三月五日
 十月六日 三月六日
 十月七日 三月七日
 十月八日 三月八日
 十月九日 三月九日
 十月十日 三月十日
 十月十一日 三月十一日
 十月十二日 三月十二日
 十月十三日 三月十三日
 十月十四日 三月十四日
 十月十五日 三月十五日
 十月十六日 三月十六日
 十月十七日 三月十七日
 十月十八日 三月十八日
 十月十九日 三月十九日
 十月二十日 三月二十日
 十月二十一日 三月二十一日
 十月二十二日 三月二十二日
 十月二十三日 三月二十三日
 十月二十四日 三月二十四日
 十月二十五日 三月二十五日
 十月二十六日 三月二十六日
 十月二十七日 三月二十七日
 十月二十八日 三月二十八日
 十月二十九日 三月二十九日
 十月三十日 三月三十日
 十月三十一日 三月三十一日
 十一月一日 四月一日
 十一月二日 四月二日
 十一月三日 四月三日
 十一月四日 四月四日
 十一月五日 四月五日
 十一月六日 四月六日
 十一月七日 四月七日
 十一月八日 四月八日
 十一月九日 四月九日
 十一月十日 四月十日
 十一月十一日 四月十一日
 十一月十二日 四月十二日
 十一月十三日 四月十三日
 十一月十四日 四月十四日
 十一月十五日 四月十五日
 十一月十六日 四月十六日
 十一月十七日 四月十七日
 十一月十八日 四月十八日
 十一月十九日 四月十九日
 十一月二十日 四月二十日
 十一月二十一日 四月二十一日
 十一月二十二日 四月二十二日
 十一月二十三日 四月二十三日
 十一月二十四日 四月二十四日
 十一月二十五日 四月二十五日
 十一月二十六日 四月二十六日
 十一月二十七日 四月二十七日
 十一月二十八日 四月二十八日
 十一月二十九日 四月二十九日
 十一月三十日 四月三十日
 十一月三十一日 四月三十一日
 十二月一日 五月一日
 十二月二日 五月二日
 十二月三日 五月三日
 十二月四日 五月四日
 十二月五日 五月五日
 十二月六日 五月六日
 十二月七日 五月七日
 十二月八日 五月八日
 十二月九日 五月九日
 十二月十日 五月十日
 十二月十一日 五月十一日
 十二月十二日 五月十二日
 十二月十三日 五月十三日
 十二月十四日 五月十四日
 十二月十五日 五月十五日
 十二月十六日 五月十六日
 十二月十七日 五月十七日
 十二月十八日 五月十八日
 十二月十九日 五月十九日
 十二月二十日 五月二十日
 十二月二十一日 五月二十一日
 十二月二十二日 五月二十二日
 十二月二十三日 五月二十三日
 十二月二十四日 五月二十四日
 十二月二十五日 五月二十五日
 十二月二十六日 五月二十六日
 十二月二十七日 五月二十七日
 十二月二十八日 五月二十八日
 十二月二十九日 五月二十九日
 十二月三十日 五月三十日
 十二月三十一日 五月三十一日
 一月一日 六月一日
 一月二日 六月二日
 一月三日 六月三日
 一月四日 六月四日
 一月五日 六月五日
 一月六日 六月六日
 一月七日 六月七日
 一月八日 六月八日
 一月九日 六月九日
 一月十日 六月十日
 一月十一日 六月十一日
 一月十二日 六月十二日
 一月十三日 六月十三日
 一月十四日 六月十四日
 一月十五日 六月十五日
 一月十六日 六月十六日
 一月十七日 六月十七日
 一月十八日 六月十八日
 一月十九日 六月十九日
 一月二十日 六月二十日
 一月二十一日 六月二十一日
 一月二十二日 六月二十二日
 一月二十三日 六月二十三日
 一月二十四日 六月二十四日
 一月二十五日 六月二十五日
 一月二十六日 六月二十六日
 一月二十七日 六月二十七日
 一月二十八日 六月二十八日
 一月二十九日 六月二十九日
 一月三十日 六月三十日
 一月三十一日 六月三十一日
 二月一日 七月一日
 二月二日 七月二日
 二月三日 七月三日
 二月四日 七月四日
 二月五日 七月五日
 二月六日 七月六日
 二月七日 七月七日
 二月八日 七月八日
 二月九日 七月九日
 二月十日 七月十日
 二月十一日 七月十一日
 二月十二日 七月十二日
 二月十三日 七月十三日
 二月十四日 七月十四日
 二月十五日 七月十五日
 二月十六日 七月十六日
 二月十七日 七月十七日
 二月十八日 七月十八日
 二月十九日 七月十九日
 二月二十日 七月二十日
 二月二十一日 七月二十一日
 二月二十二日 七月二十二日
 二月二十三日 七月二十三日
 二月二十四日 七月二十四日
 二月二十五日 七月二十五日
 二月二十六日 七月二十六日
 二月二十七日 七月二十七日
 二月二十八日 七月二十八日
 二月二十九日 七月二十九日
 二月三十日 七月三十日
 二月三十一日 七月三十一日
 三月一日 八月一日
 三月二日 八月二日
 三月三日 八月三日
 三月四日 八月四日
 三月五日 八月五日
 三月六日 八月六日
 三月七日 八月七日
 三月八日 八月八日
 三月九日 八月九日
 三月十日 八月十日
 三月十一日 八月十一日
 三月十二日 八月十二日
 三月十三日 八月十三日
 三月十四日 八月十四日
 三月十五日 八月十五日
 三月十六日

新南州 税務所 内 待令 電話 六三
 北下 國口代理店 電話 七
 德州 土肥代理店 電話 九

